

8 20万戸。平成25年の住宅・土地統計調査により明らかになった全国の空き家の数です。少子高齢化や人口移動の変化などにより、管理不全の空き家が、防災、衛生、景観などの生活環境に影響を及ぼす社会問題が起きています。空き家数は平成5年には448万戸でしたが、この20年間で増加の一途をたどり1.8倍にもなっています。また空き家率は、平成10年に初めて1割を超え、平成25年には13.5%となっています。居住者の死亡や転居、相続人が居住しないなど、多岐に渡る原因。たとえ、居住可能な状態であ



適切に管理されていないと、倒壊の危険性や景観の悪化など、周囲の環境への悪影響が懸念される

でも、自宅に対する愛着や他人が住む事に対する抵抗感があったり、家財道具や仏壇が残されていたりと、賃貸や売買が進んでいないのが現状です。このままでは、今後も増加すると考えられている空き家。今その対策が始まっています。



丁寧に管理している庭はとてもきれいで、空き家とは思えないほどの仕上がりになっている

これから残したいもの
兄弟は全員遠くに家を構えて生活。また、一人息子は東京で働き、戻ってくる見込みは少ないが、彼女はこれからは壊す気はないといっています。「私が生きている限り、この家を残していきたい」と思っているんです。家族の思い出の場所を残すため、そう意気込みを語りました。すぐにでも住めるように手が加えられた思い出の家は、近い将来、空き家ではなくなるでしょう。

き家になっています。
活用のためリフォーム
「住んでいなくても実家は実家。取り壊したり、売却したりすることには、抵抗があります」。美栄子さんは、この家を活用してほしいと、トイレや台所、廊下などを今年リフォーム。伸びていた庭木もご主人と2人でバツサリと剪定。庭木の張り出しや倒木などで隣近所に迷惑を掛ける心配はありません。前庭の植栽は一直線に揃えられ、空き家とは思えないほど管理が行き届いています。

ここは思い出の場所 生きている限り残したい——

空き家を案内してくれた
みえこ
高根沢 美栄子 さん

黒磯で生まれ育った彼女。黒磯駅から御用邸に向かう天皇陛下のお見送りなど、多くの思い出話も聞かせてくれた



リフォームした壁や床。家全体も築30年以上経過しているとは思えない。きちんと手を加えることで活用の道が開ける



美栄子さんは3人兄弟の2番目。兄は千葉、弟は埼玉で暮らしています。以前は、お盆や正月にこの家に集まり、食卓を囲むのが恒例でした。「息子や孫が集まると、決まって母はたくさん話さないと気が済まない」



美栄子さんは3人兄弟の2番目。兄は千葉、弟は埼玉で暮らしています。以前は、お盆や正月にこの家に集まり、食卓を囲むのが恒例でした。「息子や孫が集まると、決まって母はたくさん話さないと気が済まない」

みんなで囲んだ食卓

今から33年前の昭和58年。東京デイズニールンドが開園した年。通りから少し入った閑静な土地に、子どもが独立し、両親が2人で住むために建てた家は、今は主を失い、ひっそり佇みます。美栄子さんのお母さんが亡くなったのは18年前。少し足が悪かった父。1人では生活に支障が出るので、市内に住む美栄子さん夫婦と同居することになった。それを機にここは空き家となりました。

そんな思い出の場所も、放っておくと急激に腐朽が進みます。週に数回の空気入れ替えや伸びた庭木の手入れ。「自宅から遠くありませんが、大変な労力が必要でした」と当時を振り返ります。そこで、人に貸し出すことを決意。不動産屋に相談し、今までに3世帯がこの場所で暮らしました。しかし、最後に住んでいた人も新居を構えるということで、現在はまた空

人に貸すことを決意

さんのちらし寿司を振る舞いした。そう語る彼女は昔を懐かしむかのように、少し遠くを見つめました。居間の掘りごたつにみんなで足を入れ、おせち料理をわけあった正月はもう戻りません。



庭付き一戸建てのマイホーム。その場所には家族の笑顔が溢れていました。しかし、時代の流れとともに笑い声は少しずつ消え、やがて静寂が訪れます。日本全国で増え続けている空き家。管理が行き届いていない空き家の増加により、倒壊の危険や衛生上の問題などが指摘されています。空き家の内側には、そこで暮らした人々の思い出が。壁を隔てた外側には、今も周囲で暮らしている人々の生活があります。あなたは、空き家を持っていますか。周囲に空き家はありますか。今住んでいるその家の、そう遠くない未来のこと、少しだけ考えてみませんか。